



野球のボールはどうやって作るの

野球ボールの材料は

野球ボールの材料になるものは、コルク、ゴム、毛糸、それに皮です。硬式野球ボールは、直径7.2センチメートル、周囲22.9～23.5センチメートル、重さ41.8～48.8グラムと決められています。

野球ボールの作り方

- 1) ボールのしんになるコルクに、ゴムをかぶせる。
- 2) ゴムの上から、まず、太い毛糸を手作業でまきつける。
- 3) さらに細い毛糸をまく。
- 4) その上に、めん糸をまき、しっけをふせぐために、ゴムのりをぬって表になる皮をはり合わせる。
- 5) この皮をビニロン糸で108のぬい目にぬう。ボールのぬい目は両側で108と決められている。
- 6) ぬい終わったボールは、まんまるにするためにプレス機にかける。
- 7) プレスしてつぶれたボールのぬい目を、アイロンで起こす。こうしないと、ボールがすべってしまうからだ。
- 8) できあがったボールは、3.95メートルの高さから自然に大理石の上に落とし、合格ラインの線まではずめば合格となる。(監修 小川 格)

